

# 「〇〇試験」受験を強要されていませんか？

私は「誰」のために働いているの？

某社内試験（合格したら転職）の受験を断った際に、職場の上司や管理職と揉めた経験のある方は多いと思います。

断る理由としては、〇〇の業務が自分に合っていない、今後も続けたいから、というのが殆どだと思います。しかし、この回答に対する切り返しはきちんと用意されていて、社会に出たら好きなことばかりでは通用しない。望まないことでも苦勞した分、人間として成長できる、といった感じではないでしょうか。

お気付きのとおり、多くの社会人が、望まないことを嫌々ながらも引き受けてしまうのは、**会社を辞めたら生きていけないという考えが根底にあるからです**。会社から睨まれないように、自分の立ち位置を守ることには必死で、たとえ正当な言い分があってもそれを差し控えているのが現状です。もちろん、これは「成長」とはほど遠い状態なのですが、その辺りの分析が十分にできていないから、こういった安易な発言が出てくるのでしょう。

新卒で採用されたら、**会社の決めた配属先に行き、要員等での転職や試験を受けますが、個人の意思や家庭環境が考慮されない場合が多く、望まぬ試験・転職を受け入れてる社員もいます**。

試験を合格しても、転職先は希望が考慮されることは稀で受験を拒否する大きな原因になっています。

## 「先輩の声」は単なるポジショントーク

認知的不協和という社会心理学用語があります。これは、アメリカの心理学者レオン・フェスティンガーによって提唱された理論で、**自分の考えと現実が整合しない場合に感じる「不快感」のことを表しています**。人間はこのような状態になると、どうにかしてその矛盾を解消しようとする。

例えば、お店の店員に勧められて、本当は要らないような商品を購入してしまった際、「いずれ必要になるかもしれないから、買って置いて損はない。」と無理やり思ってしまう場合がそうです。

〇〇してよかった「最初は嫌だったけど、慣れたら楽しい」。

先輩の声として、よくこういった話が挙げられます。しかし、**実際のところは、本人にしか分かりません。何より大事なのは、周囲のノイズに惑わされずに、自分の意思で決めることです**。

試験を断るには理由があります。理由を精査することなく、強要するだけでは、同じことを繰り返すだけです。



個人の問題を解決することも、労働組合の役目です。



若い力

第 124 号

2019年 9月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515